

阪神・淡路大震災15周年記念事業

ジブリの絵職人

伊鹿和雄展

トトロの森を描いた人。

同時開催

3びきのくま

映画にできないとおきのおはなし



「となりのトトロ」背景画(1988年)©1988二馬力・G

**男鹿和雄の世界がいよいよ神戸にやってくる！
兵庫県立美術館で最後の開催！**

兵庫県立美術館では、「ジブリの絵職人 男鹿和雄展 トトロの森を描いた人。」と「3びきのくま展 映画にできないとおきのおはなし」を同時開催いたします。両展の同時開催は、2010年1月17日に阪神・淡路大震災から15周年の節目を迎えるのを機に、スタジオジブリおよび三鷹の森ジブリ美術館の協力を得て神戸で特別に実現したもので、阪神・淡路大震災15周年記念事業の一環として開催されます。

「ジブリの絵職人 男鹿和雄展」は、2007年夏の東京都現代美術館を皮切りに全国を巡回、これまで80万人を超える動員を記録した話題の展覧会ですが、関西初登場となる今展が巡回の最終会場となります。

男鹿和雄は、アニメーションの美術という仕事において、その作品の舞台となる背景画を数多く描き続けてきました。特にスタジオジブリ作品では、「となりのトトロ」(1988年)の美術監督として初めて映画作りに参加。昭和30年代の日本の澄んだ空気を鮮やかな色彩で表現し、かの名作を生み出す重要な

役割を担いました。その後も、リアルに描かれた現代の風景と淡い色彩による記憶の中の風景との対比が興味深い「おもひでぼろぼろ」、狸の棲む里山の四季のうつろいを活写した「平成狸合戦ぽんぽこ」、東北人ならではの感性でエミシの村や太古の森を描いた「もののけ姫」と、多くの作品に美術監督として携わり、そこに描かれる美しい景色は、数多くの名シーンを支えてきました。

木立の一本一本にまで及ぶ入念な観察と、緻密な中にも大胆な筆致が冴える卓越した技術で、

光や気候の変化、四季の変化、空、雲、田園、草木や花といった自然の色彩豊かな表情を捉える男鹿和雄の背景美術。描かれた世界は、私たちが誰しも親しみ、憧れてきた風景ばかりです。

同時開催「3びきのくま展」は、名作絵本『3びきのくま』（トルストイ文／バスネツォフ絵 福音館書店刊）を題材に2007年に三鷹の森ジブリ美術館で行われた企画展示を、今回初めて兵庫県立美術館で再現するものです。

『3びきのくま』は、宮崎駿監督がかつて映画にしようとは何度も検討しましたが、「これは“映画にできない、とっておきのおはなし”だ」という結論にたどりついたおはなしです。展示では、絵本の中の世界が目の前に現れ、見るだけでなくその中に入って楽しむことができます。高畑勲監督による解説が加わり、絵本の楽しさを何倍にもしてくれる展示です。

「三鷹の森ジブリ美術館」オリジナルグッズが勢揃い！

併設ショップには、ポストカード・雑貨などオリジナルグッズが満載です。

中でも、普段は三鷹の森ジブリ美術館でしか手に入らない商品や、展覧会オリジナル「3びきのくま」Tシャツなども限定販売されます。お見逃しなく。

「ジブリの絵職人 男鹿和雄展」と「3びきのくま展」。スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館の企画制作協力によるこの2つの展示を同時に楽しめるのは、**今回の神戸展が最初で最後の機会**です。

【展覧会構成】

(1) ジブリの絵職人 男鹿和雄展（全3章立て 出品点数約600点）

第1章 背景：テレビから映画へ

第2章 投影：ジブリ作品に想いを映す

第3章 反映：映画を離れて

(2) 3びきのくま展

文豪トルストイによる童話『3びきのくま』をディスプレイ表現した、2007年三鷹の森ジブリ美術館での展示を初めて同館以外で再現。

その他アニメーション制作紹介パネルやワークショップコーナーなどを設置予定。

- 1 会 期 平成21年12月8日（火）～平成22年2月7日（日）
- 2 休 館 日 月曜日（ただし月曜日が祝日の場合は開館・翌火曜日が休館）、12月31日、1月1日
- 3 開館時間 午前10時～午後6時
（金・土曜日は夜間開館：午後8時まで／1月2日（土）を除く）
入場は閉館30分前まで
- 4 会 場 兵庫県立美術館 3階 企画展示室
- 5 主 催 兵庫県立美術館、読売新聞大阪本社、読売テレビ
- 6 後 援 兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会
- 7 企画制作協力 スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館

8 協 力 シマブンコーポレーション、ホテルオークラ神戸、EPSON、ウォルト ディズニ
ー スタジオ ホーム エンターテイメント

9 観 覧 料（「男鹿和雄展」「3びきのくま展」両展共通）

一般 1,400（1,200）円、大・高生 1,000（800）円、中・小生 500（400）円

※（ ）内は前売り料金および 20 名以上の団体割引料金

※兵庫県内在住・在学の中・小生はココロンカードの提示により無料

※障害のある方とその介護の方（1 名）、および兵庫県内在住の 65 歳以上の方は、
当日料金の半額

※コレクション展の観覧には別途観覧料金が必要

（本展とあわせて観覧される場合は割引あり）

※「3びきのくま展」単独の入場券は販売しません。

前売り券は、ローソンチケット（Lコード:55550）ほか、京阪神の主要駅、主要プレ
イガイドで発売

男鹿和雄展開催記念 オリジナル卓上カレンダー付き前売り券（数量限定）を販売
全国のローソンチケットで、オリジナル「男鹿和雄展卓上カレンダー」付き前売り券を
11月上旬から発売。今回の神戸展だけで実現した数量限定企画です。

10 関連事業（予定）

（1）ひとはく背景画セミナー（3回連続）

平成 21 年 12 月 13 日（日）、平成 22 年 1 月 9 日（土）、11 日（祝・月）

毎回午後 2 時から 当館レクチャールームにて

定員 80 名

無料（聴講には観覧券の半券が必要です）

講師：兵庫県立人と自然の博物館研究員

（2）男鹿和雄展プレゼンツ よし笛 クリスマスコンサート

平成 21 年 12 月 23 日（祝・水）

2 回公演（1 回目：午前 11 時から 2 回目：午後 1 時 30 分から）

いずれも当館ホワイエにて

定員 100 名

無料（鑑賞には観覧券の半券が必要です）

出演：はなちゃんず

主催：兵庫県立美術館アートフュージョン実行委員会

（3）阪神・淡路大震災 15 周年記念 スタジオジブリ名曲コンサート

平成 22 年 1 月 17 日（日）

2 回公演（1 回目：午前 10 時 30 分から 2 回目：午後 1 時から）

いずれも当館ホワイエにて

定員 100 名

無料（鑑賞には観覧券の半券が必要です）

出演：はなちゃんず

（4）クリスマスファミリーコンサート

平成 21 年 12 月 20 日（日）

2回公演（1回目：午後1時30分から 2回目：午後3時30分から）
いずれも当館ホワイエにて
定員各回100名
無料（鑑賞には観覧券の半券が必要です）
出演：アンサンブルちょうちょ
主催：兵庫県立美術館アートフュージョン実行委員会

(5) 映画会「となりのトトロ」（フィルム上映会）

平成21年12月29日（火）
3回上映（午前11時、午後1時、午後3時30分）
いずれも当館ミュージアムホールにて
定員各回250名
無料 往復はがきによる申込制（鑑賞には観覧券の半券が必要です）
※申込方法は、兵庫県立美術館ホームページをご覧ください。

(6) 映画会「ウォレスとグルミット ベーカリー街の悪夢」ほか3本（有料）

平成22年1月30日（土）
3回上映（午前10時30分、午後1時、午後3時30分）
※詳細は、兵庫県立美術館ホームページをご覧ください。

(7) 絵本読み聞かせ会「3びきのくまクリスマスイベント」

平成21年12月23日（祝・水）
午前9時30分から 「3びきのくま展」展示室内にて（定員20名）
無料 往復はがきによる申込制（参加には観覧券の半券が必要です）
※申込方法は、兵庫県立美術館ホームページをご覧ください。
出演：読売テレビアナウンサー

(8) ボランティアによる「3びきのくま」絵本読み聞かせ会

会期中毎週日曜日
午後1時から（20分）
当館アトリエ1にて（12月13日のみ当館ホワイエにて）（定員20名）
無料

(9) ボランティアによる展示解説会

会期中毎週日曜日（ただし1月3日を除く）
午前11時から（15分） 当館レクチャールームにて（定員80名）
無料

11 お問合せ先

兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

ホームページ<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

*取材・写真提供に関すること：営業広報グループ

TEL:078-262-0905（直） FAX:078-262-0903

*展覧会の内容に関すること：企画担当学芸員 河崎晃一、相良周作

TEL:078-262-0909（直） FAX:078-262-0913

展覧会構成

(1) ジブリの絵職人 男鹿和雄展 (全3章立て 出品点数約 600 点)

第1章 背景：テレビから映画へ

1972年に、アニメーションの背景美術を手がけていた会社に入社した男鹿は、テレビ番組のための制作で研鑽を積み、やがて自ら美術監督として、作品の世界観をつくりあげる役割を担っていきました。本章では、現在残されている当時の男鹿の背景画などを展示します。

第2章 投影：ジブリ作品に想いを映す

1988年の「となりのトトロ」で、男鹿は美術監督として初めてスタジオジブリと共同作業をし、以後も「おもひでぼろぼろ」、「平成狸合戦ぽんぽこ」、「もののけ姫」の美術監督や、その他の作品の背景画制作に携わります。本章ではそうしたスタジオジブリとともに手がけた作品を展示します。

第3章 反映：映画を離れて

1995年にスタジオジブリを退社した男鹿は、以後フリーの立場として、引き続きアニメーションの背景美術の制作に携わるとともに、自身のプロデュースによるアニメーションの制作や、書籍の挿絵などを手がけ、現在に至ります。本章では、こうした近年の男鹿の作品を紹介します。



「となりのトトロ」背景画 (1988年) ©1988 二馬力・G



「となりのトトロ」美術ボード (1988年) ©1988 二馬力・G



「となりのトトロ」美術ボード (1988年) ©1988 二馬力・G



『沖縄の海岸』「第二楽章」より(2006)

男鹿 和雄 プロフィール

1952年2月29日、秋田県生まれ。高校を卒業後、上京し専門学校に入学するも1年で中退。アルバイトなどを続けていた1972年、アニメーション背景美術の会社・小林プロダクションに入社。



「櫛の木モック」で初めて背景を手がけ、以後、小林七郎の下で数々のアニメーション作品の背景を担当する。1975年に小林プロを退社後、一時、日本中を放浪し、その後、仙台の看板屋に約1年半勤務する。1977年、小林プロへ戻り、「ユニコ」や「コブラ」といった劇場作品を手がけた後、1982年に再び退社。その数ヶ月後、劇場映画「幻魔大戦」に取り組んでいた美術監督・椋尾篁の誘いで

同作に参加。その後、「はだしのゲン」や「^{とき}時空の旅人」「妖獣都市」といった、マッドハウスが制作する劇場映画の美術監督を手がける。1987年、「火垂るの墓」の美術監督・山本二三の紹介で、宮崎駿監督作品「となりのトトロ」に参加。以後、スタジオジブリ作品「おもひでぽろぽろ」「平成狸合戦ぽんぽこ」「もののけ姫」で美術監督を務める。「耳をすませば」参加後はフリーとなり、現在まで数多くのアニメーション作品の背景美術に携わる。同時に、絵本、イラストレーション、書籍の挿絵なども手がけ、2006年には「種山ヶ原の夜」でDVD作品の監督も務めた。

2009年7月に、「秋田、遊びの風景」（徳間書店刊）を発売。

(2) 3びきのくま展

文豪トルストイによる童話『3びきのくま』を題材に宮崎駿監督が企画した、2007年三鷹の森ジブリ美術館での展示を初めて同館以外で再現します。展示は2室に分かれ、巨大なくまのテーブル、椅子、食事が並べられた「くま」の家の中のようすと、高さ3メートル近い「くま」の親子といった、絵本の中の世界を体感できるものとなっています。



©Museo d'Arte Ghibli © E.Vasnetsova & N.Filipchenko

『3びきのくま』（トルストイ文/バスネツォフ絵 福音館書店刊）あらすじ

女の子がくまの留守宅に忍び込み、スープを飲んだり椅子を壊したりベッドに寝たりと好き勝手に過ごしていると、くまの家族が帰って来て女の子にかみつこうとします。しかし、くまは逃げる女の子に追いつけませんでした。